



環境経済論A

第13講

持続可能な発展 Sustainable
Development ②

H.デイリーの問題提起（定常経済）

- 持続可能な発展の経済学，定常経済の意義
- “ブルントラント委員会(1987)のはるか以前に(1848, J.S.ミル)，SDの概念は「定常状態」Stationary Stateという名のもとに論じられている。”
- 社会厚生の上昇（人類のWelfare）

経世済民思想としてのSD

- SDは経済学の目的「経世済民」そのもの,「環境」経済学固有の概念ではない。
- 古典派経済学 とりわけ J.S.ミルの定常状態Stationary State
- 経済の再生産構造, 每期繰り返されるシステムの存立条件, 長期の条件の探究, 自然価格体系(Natural Price)
- ピエロ・スラッファP.Sraffaの貢献⇒現代古典派(Modern Classicals, Neo-Ricardians)

SDの視点からの経済政策目標

- 資源配分(効率)
- 所得分配(公正)
- 経済規模(持続可能性)

環境マクロ経済学

- H.デイリーの環境マクロ経済学の提唱
- 適正な経済規模(持続可能な経済規模)
- エコロジー経済学
- 長期の視点の必要性(→古典派経済学)